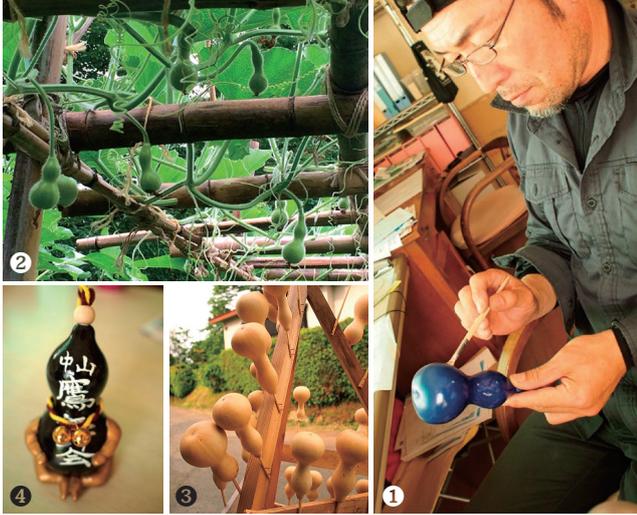


「地域おこし協力隊が見つけた」

しらたかの鉄人! 達人!



①ひょうたんの色塗りは、遊びに来た地域の子もたちと一緒にしている ②鷹舞会で作った棚でひょうたんを栽培している ③ひょうたんを干す道具も手作り ④ひょうたん人形(名前募集中)。オーダーメイドで名入れもできる

「ひょうたん作り」

沼澤 秀樹さん(中山・47歳)

「地域でお金を生み出し、地域に還元する」

小さいながらも存在感があり、「よっ!」と声をかけてきそうなひょうたん。「昔あゆ茶屋でひょうたんを買ったんだけど、そのひょうたんを作っていた人がやめたつて聞いて」と、ひょうたんの生みの親である秀樹さん。そこからひょうたんに興味を持ったと言います。

中山の若い衆会「鷹舞会」に声をかけ、みんなでひょうたんの種まきから加工まで。「ひょうたんは一度腐らせて種取るんだけど、それが臭くて…でも花が咲いて、実がなっていくのを見るのが楽しみ

だから」と秀樹さんは笑いませす。

昨年は、中山の子ども育成会の卒業生5人に記念品として贈呈。「ちゃんと自分の部屋に飾ってあるつて聞いたよ。これからは地域の人の目につくところにこのひょうたんを置いて、もつとたくさんの人に見てほしいな」。今後は販売もしていきたいとのこと。

「地域でお金を生んで、そのお金で地域を盛り上げていく。それができたら最高だよね。このひょうたんもいつか中山の民芸品になるかもしれないよ」

ひょうたんは昔から縁起のいい植物とされ、魔除けにも使われていたそうです。今後もひょうたんのランタンや干支の置物など、どんどん進化していくようです。玄関に飾ったら良いことありそうだな。町で見かけたら、ぜひお手に取ってみてください!



地域おこし協力隊
茅野 唯さん

SELF JUDGE

編集後記

▼今回の特集を組むにあたり、クマは本当にハチミツを好んで食べるのだということを初めて知りました。ただし、実際のクマは赤いTシャツを着た黄色いくまさんのように可愛らしいものではありません。▼皆さんは野生のクマに遭遇したことはありませんか。私はランニング中に遭遇したことがありません。目があった瞬間は頭が真っ白になりましたが、「視線を外してはいけない」と思い、じっと見つめていたらクマは去っていききました。もしあのとき、何も知らずに目散に走って逃げていようものなら今頃…。少しの予備知識がいざというときに役に立つことを、身をもって感じた体験でした。

▼クマに限らず、イノシシやタヌキなど、私たちの生活に害をもたらす野生動物が多く人里に出没するようになっています。ただ、その原因をつくっているのはほかでもない私たち人間です。野生動物による被害を未然に防ぐためにも収穫しない果樹や野菜、家庭で出た生ゴミなどは放置しないよう、ご協力をお願いいたします。(てづか)